さらに安全な河川へ

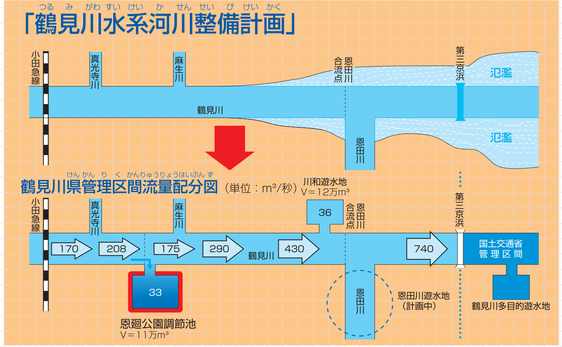
「鶴見川流域整備計画」では、流域対策とあいまって、現在１時間に50mmの雨が降っても（おおよそ６年に１度の確率）氾濫しないよう、河道が整備されてきました。

また、平成元年に策定された「鶴見川新流域整備計画」では、鶴見川および恩田川において、豪雨などによって川の水位が上がった場合、ある程度の水を一旦溜めておける施設（調節池、遊水地）をつくり、溜めた分だけ川の水位を下げ、洪水の被害を防ぐ施設が計画されています。

これらの施設が整備されると１時間に60mmの雨（おおよそ10年に１度の確率）が降っても氾濫が防げるようになります。その施設のひとつが恩廻公園調節池です。

なお、平成19年３月に策定された「鶴見川水系河川整備計画」にも、洪水調節施設として位置づけられています。

「鶴見川水系河川整備計画」



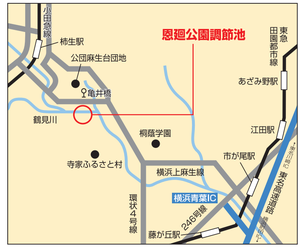
広場で遊ぶときは、ご注意ください！

恩廻公園調節池は、鶴見川の洪水を一時的に溜めるために作られています。
雨が降り、鶴見川の水位が上がると水は越流提（周りより低い堤防）より、
広場に流れ込み、管理棟の地下にあるトンネルへと溜まる仕組みです。
その流れは速く、人が流される危険があります。

広場を利用する時は、天候の変化に気をつけて、雨が降ってきたり、川の水が増えてきたら、すぐに避難してください。

避難するタイミング

1. 雨が降っているとき
2. 注意 — 大雨洪水注意報などが出ているとき
3. 増水 — 回転灯がついているとき（電光表示板）
4. 黒い雲が見えるとき
5. キリンの足が見えなくなったら



交通
- 小田急線「柿生」駅から市が尾駅行・桐蔭学園行バスで亀井橋下車
- 東急田園都市線「市が尾」駅から柿生駅行バスで亀井橋下車

恩廻公園調節池管理棟
〒215-0022
川崎市麻生区下麻生3-1-1
電話044-988-0523

神奈川県

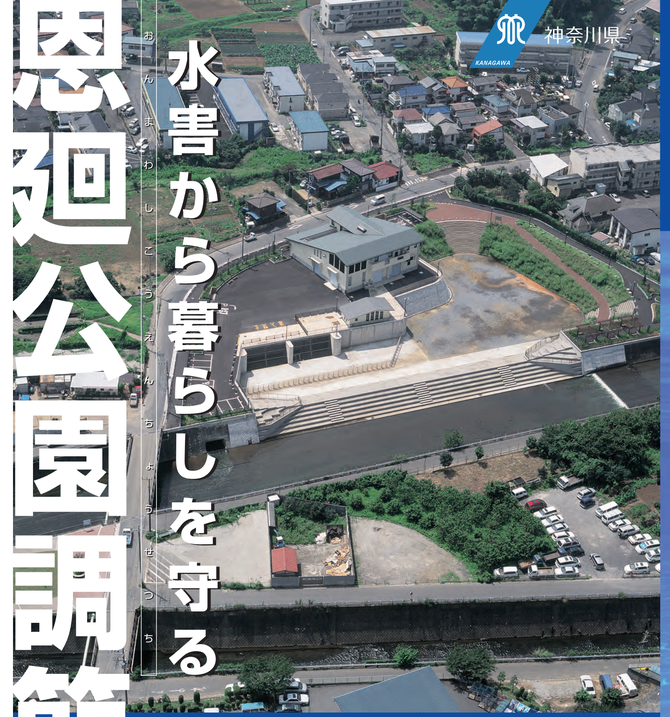
横浜川崎治水事務所 川崎治水センター
〒214-0038
川崎市多摩区生田4-25-1
電話044-932-7211(代)

●印刷年月：平成29年1月　●このパンフレットは再生紙を使用しております。

恩廻公園調節池

水害から暮らしを守る

おんまくわしこうえんちょうせつち



鶴見川の今と昔

鶴見川は、東京都町田市上小山田を源とし、川崎市・横浜市を流れ東京湾へと注ぐ全長42.5ｋｍ、流域面積235km²の一級河川です。昭和30年代前半までの鶴見川流域は、自然が多く（土の地面が多く）、水田やため池もあったため、雨水をそれらの場所に浸透させたり、溜めたりすることができました。しかし、昭和40年代から急激に開発が進んで、家やビルが立ち並び、地表は、コンクリートやアスファルトで覆われて、水田やため池も少なくなりました。そのような状況で大雨が降ると、雨水は一気に鶴見川に流れ込み、下流や低地部で氾濫を引き起こしていました。

そこで、昭和56年に流域を洪水の被害から守るため「鶴見川流域整備計画」が動き出しました。

浸水状況写真（昭和57年9月台風18号）

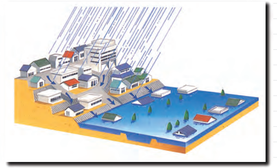
鶴見川の過去の水害

昭和33年	9月	台風22号（狩野川台風） 全域各所で氾濫、約65,760戸床上・床下浸水
昭和41年	6月	台風4号 全域各所で氾濫、約67,170戸床上・床下浸水
昭和51年	9月	台風17号　約4,830戸床上・床下浸水
昭和57年	9月	台風18号　約5,550戸床上・床下浸水

◆開発が進む前（昭和33年頃）

雨水の大半は地中に染み込んだり、水田やため池に貯留されたりしたため、鶴見川の流量は抑えられていました。

◆開発が進んだ後（現在）



コンクリートやアスファルトで地表が覆われ、森林や水田・ため池が少なくなりました。そのため雨水は染み込む場所や溜まる場所を失い、一気に鶴見川へと流れ込んでしまいます。